

令和5年度 第2回 森町総合教育会議会議録

日 時：令和6年2月19日（月）11：20～

場 所：森町福祉センター（森町公民館） 1階 大会議室

出席委員：毛利教育長・三輪委員・長瀬委員・吉川委員・古川委員

出席者：岡嶋町長

坂田学校教育課長

藤嶋学校教育課参事

名生学校教育課参事

須藤社会教育課長（兼）森町公民館長（兼）図書館長

木村体育課長（兼）体育館長（兼）青少年会館長（兼）生涯学習課長

石岡森町学校給食センター長

西川学校教育課総務係長

署名委員：吉川委員・古川委員

議 題：（1）森町チャイルドファースト宣言について

（2）学校のDX化について

（岡嶋町長）

それでは皆さんお疲れ様でございます。令和5年度第2回森町総合教育会議を開催させていただきます。開会に先立ちまして、私よりご挨拶させていただきます。改めまして、教育委員の皆様、お疲れ様でございます。総合教育会議ということで、町長に就任してから色々と教育委員会の皆様には大変お世話になっておりまして、就任4年目ということもありまして、町内だけでなく町外の有能な民間の方々と当然私自身も勉強させていただきながら連携・提携を結びながら森町の子育てそして教育に携わる分野をもっと良いものにしていければ良いなという想いのもと、様々な活動をさせていただいております。本日の議題にもあるんですけれども、子育て関係のこと、教育委員会のことが密接に関わってくるような案件でもございまして、本日私の方から議題として、森町チャイルドファースト宣言について私の方から説明させていただきまして、そしてDX化の進捗状況については担当の方から説明させていただきたいと、そのような流れで進めさせていただきたいと思っております。限られた時間ではありますけれども、教育委員の皆様方からのご意見・ご質問等頂戴できればと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

引き続きまして次第3番の会議録署名委員の指名をさせていただきたいと思っております。本日の会議録署名委員に吉川委員と古川委員を指名させていただきます。どうぞよろしく願いいたします。

それでは引き続き4番、議題に入っていきます。

（1）森町チャイルドファースト宣言についてでございます。先日チャイルドファーストフォーラムというものを子育て支援課そして教育委員会の協力もいただきながら開催させ

ていただきました。本当に様々な重層的かつ横展開が必要な非常に大変と言いますか、非常に多くの皆様にご協力いただきながら進めていかなければならない事業であり、行政としての方針であるのかなという風にとらえております。取り急ぎ今年、来年度の予算でCAP（キャップ）という教育プログラムを予算措置させていただきまして、3月会議で議会後に上程させていただきたいと思っております。チャイルドファースト宣言に関する事項が多岐にわたるんですけれども、その教育プログラムについてCAPからスタートして、かいつまんで簡単なんですけれども方向性を少しお話させていただきたいと思っております。このCAPプログラムというのは、対象は学校の生徒、そして先生、そしてP.T.A.を軸とした地域の方、親御さん、その3つが対象となります。基本的には子供の人権教育というところで、簡単に言いますと、「イヤなことはイヤと言おう」と、自分の身体にとって決められるのは、その権利を持っているのは自分だということをプログラムの中で子供たちに教えていく。そういったことを学校で先生ですとか地域の方々にもまた違う視点でそのプログラムを施して、地域全体で「子供たちの人権とは何なのか」、「子供が自分で学んで発してくる必要性は何なのか」という意識醸成ですとか、そういったものを図っていくプログラムになります。今回予算措置させていただきましたのは、CAPプログラムに関してだけなんですけれども、基本的にはこの先も少し続きまして、まずはCAPプログラム、その次にRIFCR（リフカー）という研修プログラムもあります。このRIFCRに関しましては、学校の先生、そして子供たちと触れ合う職員、学童ですとか幼稚園、そういった方が対象となります。簡単に言いますと、子供たちの変化、異変そういった危険性をいち早く察知して子供たちから情報を引き出す、そういった知識・技能を研修するものになります。これは今後教育委員会、学校の方に提案していければ良いと思っております。当然町長部局の方から「こうあるべきだ、これは絶対にやらなければならない」といったことではなくて、現場のご意見、現状、教育委員会の皆様のご意見をお聞きしながら、研修の検討をしつつ提案をしていければと考えているところです。その次にCARE（ケア）というプログラムもあるんですけれども、このCAREプログラムに関しては、対子供だけではなくて、幅広い職業において非常に有効なプログラムです。子供と親はもちろんのこと、先生と生徒、上司と部下、福祉行政と家庭、様々な関係性においてこのプログラムは効果を発揮します。簡単に言いますと、褒めるということ。相手を肯定する、その中で関係性を築いて心を開いていただくというようなプログラムです。詳しくはまた何かの機会にご説明させていただきますけれども、このCAP、RIFCR、CAREというものが結局のところは教育委員会の話になりますと、やはりいじめの予防ですとか防止にも非常に深く繋がるプログラムになるのではないかと私は考えています。色々な新聞・ニュース等でも色々な事案が事件として報道に載っています。多方面から子供の意識を変え、親の意識を変え、学校もそう、地域もそう、総合的に地域皆で子供を育てようという意識醸成を作っていくというのが目的・主旨でございます。これらのCAP、RIFCR、CAREその先に医療機関に対してのBEAMS（ビームス）ですとか、英語ばかりになってしまうんですけれども、看護師、医師関係そういったところのプログラ

ムも非常に手厚く色々なところで開催されておりますし、色々な種類があります。こういった情報をいただくのもやはり民間の方々からですし、この道南でもこのプログラムを主体として実施している団体がたくさんありますので、まずそういった方々と連携しながら色々なことを進めていきたいと考えております。ひとまずチャイルドファースト宣言下におけるまずはC A Pプログラム、これは予算措置をしております、議会に諮っていくというところです。その先にもう何個か増えていくプログラムがありますというところを情報共有させていただきました。これまでの内容でご質問・ご意見等ありましたらお願いいたします。

(古川委員)

私も先日フォーラムに参加させていただいて、とても良い企画だと思いました。普段子供たちと関わる際の言葉だとか、もうちょっと気かけられるようになりましたので、ありがとうございます。

(岡嶋町長)

いえいえ。初めてやることはたくさんありますので、そこは私も含めて職員も経験したことのないところではあると思うんですけども、民間の方々に応援してくれる方がいっぱいいますので、そこは勇気を持ってという言い方は変ですけども、皆で地域のそういった部分を作り上げていくという点では状況が整ってきているのかと思います。色々この後も懇談の中でお話させていただきます。

続きまして(2)学校のD X化について説明させていただきます。最初に新年度で新たなD X化に係る教材というか設備を導入する予定であります。これも3月会議で議会に上程していく予定でございます、メインになるのが2つございます。電子黒板とA Iドリルその2点でございます、これは担当課の方から詳細をご説明させていただきたいと思っております。お願いします。

(坂田学校教育課長)

はい、皆様のお手元にI C T活用教育推進事業の説明資料をお渡ししております。新年度予算の関係でA Iドリル、電子黒板を導入するということで、話させていただきましたけれども、内容としましては事業目的に書かれておりますA Iドリルを導入することにより学習用端末の更なる利活用と個別最適な学びを実現すること、各小中学校に電子黒板を整備することにより、指導者用デジタル教科書の有効活用など授業のデジタル化を推進していくこととしております。概要を説明させていただきますと、A Iドリルの導入は児童生徒の家庭環境だとか特性に左右されないで、子供が学びたいという気持ちになった時にいつでも学ぶことが出来るという個別最適な学びを実現したいということで、このA Iドリルにつきましては、A Iがその子供がどういう問題が解けないかというのを学習して、児童一人一人

に合った問題を出すというような形になっております。その AI が児童生徒の学習データを基に効率良く授業の復習ができるだとか、問題を出してくれて、家庭学習で個別最適な学びを実現するというようなこととなります。学校においても演習だとかテストだとか復習だとかで問題リストを作成できるということで、それを児童生徒に配信する機能もあり、教師の業務負担の軽減を図れるというところになっております。これにつきましては小中学校全児童生徒にこの AI ドリルを導入するという風にしております。効果につきましては、今タブレットは（通信回線は）20GB を自宅でも使えるようになっているんですけども、それを更なる有効活用したいと考えております。先ほども言いましたが AI が一人一人に合わせた問題を出題することにより、個別最適な学びを実現し、学力の向上が図られるのではないかと考えております。教師も生徒一人一人の進捗状況だとかつまづきを把握することにより、個別最適な指導が出来ると考えております。

次に電子黒板の導入についてですけれども、62台と書いておりますが、町内小中学校の全ての普通教室と特別支援教室、理科室等の特別教室用に各学校3台ずつ、そして教育委員会に1台ということで考えております。これについての概要ですけれども、先ほども説明しましたけれども、デジタル教科書も同時に導入することによって教材等を電子黒板に掲示して、書くこともできますので、書き込みを行ったり、電子黒板に掲示したものを児童生徒の端末に一人一台端末の方に表示したりだとか、逆に児童生徒の端末に表示されているものを電子黒板に複数表示して、授業を行うことが出来ます。また、オンライン授業を行うためのカメラも用意したいと考えております。利便性や効果につきましては、教育委員の方々は学校に行った際に見ていただいたと思うんですか、プロジェクターだととも見えづらいんですが、視覚的に見やすくなって、理解しやすくなるということ、児童生徒の一人一台端末を活用して、双方向の授業が出来るということなんです。指導用のデジタル教科書を併せることにより、動画だとか挿絵を活用して今以上に児童生徒の興味・関心を高めて授業が出来るというような効果も期待しております。児童生徒が自分の端末で作ったものを電子黒板に写すことによって、発表したりだとか児童生徒がそれぞれ協働的な学びを実現できるのではないかと考えております。教師も授業を行うために色々な教材を用意しているんですけども、その教材を用意する準備時間も少なくなるということで、働き方改革も寄与できると考えます。先ほど教育委員会に1台電子黒板を用意すると話をさせていただきましたけれども、遠隔で授業参観をさせていただいて、教師への指導を行うことも考えております。昨年からは指導主事として名生参事にも来てもらっていますけれども、指導は回数的には20回以上行っているのですが、更に実際に行くのではなく、電子黒板による参加もしながら、更なる授業力の改善に努めていきたいと考えております。簡単でしたが説明は以上です。

（岡嶋町長）

はい、ありがとうございます。何かご質問等ございますか。

GIGA スクール構想で一人一台端末を導入しまして、先生たちや想像以上に子供達もそういう活用を行っていて、双方向のバージョンアップが出現していったところがあると思います。AI ドリルも電子黒板もそうですけれども、効率良くかつ今まで以上に双方向の学びが出現し、更に今後も子供たちからも出てくると思いますし、色々な授業の在り方も実現できるのではないかと期待しております。ちなみにこの電子黒板を教育委員の皆さんには、

(毛利教育長)

まだ皆さんにはお見せしていません。

(三輪委員)

2分の1補助ということですから、国もかなりこれに力を入れているということですね。

(岡嶋町長)

そうですね。デジタル田園都市国家構想推進交付金というものが本当に色々なものが変わっていくというか、大きな倉庫一つ建てることでもデジタル田園都市国家構想推進交付金があったりもするので、本当に色々なものが紐づいています。

(三輪委員)

今の子供たちは慣れていきますからね。吸収力はきっと早いと思います。ただ先生方が大変なのではないでしょうか、ついていくのに。

(岡嶋町長)

そうですね、その辺の先生たちへのフォローや対策は手厚くしていければと思っています。

(三輪委員)

でもこういったものを活用して子供たちが学びの中に色々な経験が出来るというのが大事なことです。

(岡嶋町長)

そうですね。それではひとまずよろしいでしょうか。

(教育委員一同「はい」の声)

(岡嶋町長)

それではその他事項はよろしいでしょうか。

(教育委員一同「はい」の声)

(岡嶋町長)

それでは以上をもちまして令和5年度第2回森町総合教育会議を終了いたします。ありがとうございました。お疲れ様でした。